

紙芝居でふるさと学習を

図書館本館で上演会

大山で生まれた紙芝居「大山日本遺産物語」の上演会が、1月15日に図書館本館で行われました。演じるのは、製作者で大山寺圓流院館長の吉島潤承さんです。

昔の「紙芝居屋」風に、拍子木を打ち鳴らし、一人ひとりに飴を配る楽しいパフォーマンスで幕開けです。身ぶり手ぶりでにこやかに語りかけながらの展開に、会場に一体感が生まれ、参加者はお話に聞き入りました。

この紙芝居は、二部構成になっています。第一部は愛らしいほのぼのとした絵で描かれた『お地蔵さまの話』。お釈迦様の願いで全国にお地蔵様が置かれたいきさつや、大山ゆかりのお地蔵様を紹介しています。

第二部の『牛馬市とお地蔵さん』は、大山の牛馬市の成り立ちが牛飼いの一家を通して描かれています。大胆な色使いで、迫力のある絵柄です。



▲紙芝居を上演する吉島潤承館長

「紙芝居」は、大人も子どももいっしょに見て楽しむことができます。親子での参加も多く、ふるさと大山を家族で学習する機会になりました。

吉島館長は、「『大山開山1300年』に向かって地元を盛り上げたい。子どもも理解できる内容になるように何度も書き直して製作した。ふるさと大山をもっと知って、誇りに思ってもらいたい」と一年後に迎える節目の年への熱い思いを語られました。

まちのたから (24) 文化財室通信

特別天然記念物
オオサンショウウオの巻

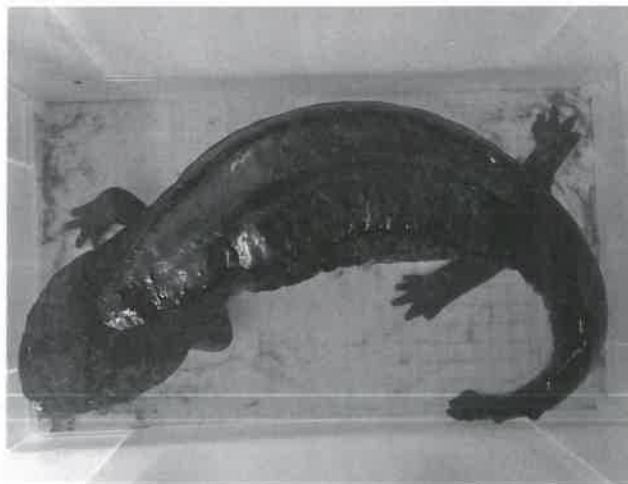
大山町の多くの河川にはオオサンショウウオが生息しています。オオサンショウウオは「生きた化石」として有名で、国の特別天然記念物に指定されています。

日本特有の両生類で、岐阜県・和歌山県以东から中国山地、大分県の山地にしか生息していません。体を半分に分けても死なないほどの強い生命力を持つているとも言われ、「ハンザキ」とも呼ばれます。大きな頭と短い足が特徴で、大きなものでは体長143センチ、体重44・3キログラムの個体が知られています。長寿で60〜70年は生きると考えられています。肉食で魚類やカニなどを食べるため、エサを求めて移動する間に、人がカニを獲るために仕掛けたカニカゴに入り込んで、動けなくなった状態で発見されることも多くあります。

今年度、大山町では7匹が保護されました。茶畑の蛇の川で保護した1匹は尾の先が切れた状態で、体長91・8センチ、体重7・18キログラムと大きなものでした。残りの6匹は下市川で保護したもので、驚いたことに一つのカニカゴに6匹が入っていました。体長は56センチから71センチのものでした。

護活動団体の協力のもとで、保護した個体に標識調査のためのチップを埋め込んでから適地に放流しています。このチップで個体識別し、生態を詳しく調べることが可能になり、保護することに役立ちます。

オオサンショウウオの大型の個体は、流れの緩やかな流域にいて、8月下旬から9月中旬ごろの繁殖期には、産卵のために巣穴を求めて上流へ移動します。11月ごろにふ化し、しばらくして親元を離れた幼体は、落ち込みや滝の連続する渓流部で育ちます。オオサンショウウオには、まだわからないことも多く、近年では保



▲蛇の川で保護されたオオサンショウウオ

大山町の自然がたいへん豊かであることを物語るオオサンショウウオを、今後もしっかりと保護していきたいものです。(人権・社会教育課文化財室)